令和8年度全国学力・学習状況調査に係る結果の考察と今後の指針について

高松市教育委員会

令和８年度全国学力・学習状況調査に係る
結果の考察と今後の指針

目　次

1　全国学力・学習状況調査の目的…… 1

2　結果の公表と活用についての方針…… 1

3　調査内容…… 1

4　調査を実施した児童生徒数…… 2

5　教科に関する調査結果の概況…… 2

6　小学校　国語　について…… 3

7　小学校　算数　について…… 5

8　中学校　国語　について…… 7

9　中学校　数学　について…… 9

10　中学校　英語　について…… 11

11　質問調査…… 13

12　今後の教育施策・事業等への反映…… 18

令和８年度全国学力・学習状況調査に係る
結果の考察と今後の指針

高松市教育委員会

１　全国学力・学習状況調査の目的

（１）　文部科学省は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析して教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために、本調査を実施しました。

（２）　高松市教育委員会は、本市の教育の結果を把握し、指導の改善に向けて有効に活用するために、本調査に参加しました。ただし、本調査により測定できる学力は、特定の一部分であり、これ以外にも様々な資質や能力が、学校教育によって育まれていると考えています。

２　結果の公表と活用についての方針

（１）　高松市教育委員会では、調査結果を分析し、本市の児童生徒の学力及び学習状況については、学校の序列化や過度の競争を招く恐れがあり、この調査の目的にそぐわないため、数値による結果の公表は行わず、全体的な傾向を文章でまとめ、公表します。本市の各小・中学校も同様です。

（２）　高松市教育委員会は、分析結果を今後の教育施策・事業等に反映していきます。

３　調査内容

（１）　教科に関する調査

小学校：国語（１３問）、算数（１６問）

中学校：国語（１５問）、数学（１６問）、英語（２６問＋数問）

※英語については、非公開問題が含まれており、生徒ごとに解く問題の数や構成が異なります。

知識・技能、思考力・判断力・表現力等は、相互に関係し合いながら育成されるという学習指導要領の趣旨を踏まえ、知識と活用を一体的に問う問題が出題されています。

（２）　質問調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することについて、児童生徒が、いくつかの選択肢の中から選んで答えます。小学校と中学校の質問内容は、ほぼ同じです。

４　調査を実施した児童生徒数（高松市立小・中学校）

	国　語	算　数・数　学	英　語	質問調査
小学校	３，３９６人	３，４０１人		３，３８８人
中学校	３，２２２人	３，２２２人	３，１０８人	３，２３５人

＊ 調査によって人数の差違があるのは、体調不良等で受けられなかった児童生徒がいるためです。

５　教科に関する調査結果の概況

【小学校】

国語の平均正答率は、全国の平均正答率を少し上回り、算数の平均正答率は、全国の平均正答率を下回る結果でした。

無解答率は、多くの問題で全国より低くなっています。

【中学校】

国語の平均正答率は、全国の平均正答率を少し下回り、数学の平均正答率は、全国の平均正答率を上回る結果でした。英語は全国平均スコアとほぼ同等となっています。

無解答率は、半数以上の問題で全国より高くなっています。

＊　国語、算数・数学の平均正答率とは、全問題数に対する平均正答数の割合で、高い数値ほど良好と言えます。

＊　無解答率とは、調査実施児童生徒数に対する各問題の解答欄に何も書かなかった児童生徒数の割合で、低い数値ほど解答意欲が高いものと判断しています。

＊　中学校英語は、CBT（Computer Based Testing）方式の調査で、GIGA 端末を使って実施されました。調査結果は正答数や正答率ではなく、IRT（Item Response Theory：項目応答理論）スコアで示されました。IRT とは、異なる問題で構成されたテストの結果を、同じ基準で比較できるようにするための統計理論で、国際的な学力調査や資格・検定試験等でも採用されています。

６　小学校　国語について（全１３問）

（１）概要

本市の平均正答率は、全国平均を少し上回っています。

（２）平均正答率からみた学力・学習状況の傾向

＊　表中□印は良好な内容を示し、■印は課題と考えられる内容を示しています。
「出題の趣旨」は、内容を要約して表記しています。

領域	出題の趣旨
話す・聞く	□相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら話の構成を考えることや、動画や音声の表現の工夫に気付くことができる。 □資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。
書　く	□集めた情報から必要な内容を引用し、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 □筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。
読　む	□文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 ■目的に応じて、必要な情報を見付けることができる。
知識及び技能	□比喩や反復等の表現の工夫に気付くことができる。 ■学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。

（３）全体を通しての考察と授業改善の方向性

ア【話す・聞く】

構成メモの工夫を選択する問題において、話の構成を捉えることはおおむねできています。一方、「どのように伝えればより効果的か」という、意図と表現を関連付けて捉える視点に課題が見られます。意図と表現を関連付けて捉えるためには、相手の意図や目的を一層意識することが大切です。そのために、表現の意図と手法を関連させて説明する活動や友達の発表を聞く際に、「どの表現（言葉・映像・音声）が、なぜ効果的だったか」を具体的に伝え合う時間を確保することが必要です。

イ【書く】

筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることはおおむねできています。一方、自分の考えをまとめるために複数の情報から必要な情報を引用することに課題が見られます。中でも、情報同士の関係付け（引用の方法や根拠の示し方）の理解が不十分です。「抜き出して書く」ということが引用であることや、本や文章から引用する際には、抜き出した部分を「」でくくることを国語科はもちろん他教科においても授業の中で意識して指導することが必要です。

ウ【読む】

文章を読んで理解したことに基づいて自身の経験と結び付けて自分の考えをまとめることは良好な状況です。一方、目的に応じて、必要な情報を見付ける問題には課題が見られます。これは、文章全体の構造や、話者同士の意見の「関係付け」を正確に捉える力の育成が必要であることを示しています。図表やメモを介した情報のつながり（対比、因果

関係、付加など）を可視化し、論理的に内容を解釈する学習を充実させることが求められます。

エ【知識及び技能】

情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使うことに課題が見られます。図示などにより語句と語句との関係を表すことを通して、考えをより明確にしたり、思考をまとめたりすることができることを理解することが大切です。指導に当たっては、材料を集めて整理したり、構成を検討したりすることに関する事項や、構造と内容を把握し、精査・解釈することに関する指導事項との関連を図り、指導の効果を高めることが考えられます。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことにも課題が見られます。学習した漢字を文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにすることが大切です。

７　小学校　算数について（全１６問）

（１）概要

本市の平均正答率は、全国平均を下回っています。

（２）平均正答率からみた学力・学習状況の傾向

＊　表中□印は良好な内容を示し、■印は課題と考えられる内容を示しています。
「出題の趣旨」は、内容を要約して表記しています。

領域	出題の趣旨
数と計算	□小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができる。 ■異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。
図　形	□直方体の箱の形を構成する面について理解している。 ■立方体の体積の計算による求め方について理解している。 ■体積の意味について理解している。
測定 変化と関係	□示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができる。 ■単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できる。 ■基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができる。
データの活用	□示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できる。 ■二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる。

（３）全体を通しての考察と授業改善の方向性

ア【数と計算】

小数については、位の意味や十進位取り記数法の仕組みを理解し、条件に合う小数をつくることがおおむねできています。一方で、異分母の分数の大小の比較について、その理由を数や言葉を用いて説明することに課題が見られます。分数の学習では、分母や分子の数量関係に着目しながら、数直線や図、式などの複数の表現を関連付けて考える活動を充実させることが重要です。また、「なぜそのように判断できるのか」を児童自身の言葉で説明する場面を意図的に設定し、根拠を明確にしながら考えを表現する力を育成していくことが大切です。さらに、考えた過程を友達と共有し、互いの考えを比較・検討する活動を通して、分数についての理解を深めることが求められます。

イ【図形】

直方体を構成する面について理解することはおおむねできています。一方で、立方体の体積の求め方を式で表したり、体積の意味を理解したりすることには課題が見られます。特に、体積を「１㎤の立方体がいくつ分あるか」という量として捉えることが十分に定着していない様子がうかがえます。図形の学習では、実際に立体を構成したり分解したりする活動を通して、図形を構成する要素に着目できるようにすることが重要です。また、体積の指導においては、公式を機械的に適用するだけでなく、単位となる立方体の個数という考え方と関連付けながら理解を深めることが必要です。

ウ 【測定・変化と関係】

示された情報を基に数量の関係を捉え、条件に合う時間を求めることはおおむねできています。一方で、単位量当たりの大きさの意味を理解し、その結果を基に比較・判断することや、割合を用いて二つの数量の関係を捉えることには課題が見られます。指導に当たっては、混み具合や人口密度など、日常生活に関わる場面を取り上げながら、「１当たりの量」が何を表しているのかを考える活動を充実させることが大切です。また、割合については、線分図やテープ図を活用しながら、基準量、比較量、割合の関係を捉える学習を繰り返し行うことで、数量関係についての理解を深めることが求められます。

エ 【データの活用】

示された二つの表を比較し、集計の誤りを見付けて根拠を説明することはおおむねできています。一方で、二次元の表から条件に合う数を正しく読み取ることには課題が見られます。特に、複数の観点を関連付けながら必要な情報を取り出すことに困難さが見られます。データの活用では、表やグラフから必要な情報を選択し、複数の情報を関連付けて考察する活動を充実させることが重要です。また、児童自身がデータを収集し、二つの観点で整理して表を作成したり、その結果を説明したりする活動を取り入れることで、資料を根拠として判断する力や表現する力を育成することが期待されます。

８　中学校　国語について（全１５問）

（１）概要

本市の平均正答率は、全国平均を少し下回っています。

（２）平均正答率からみた学力・学習状況の傾向

＊　表中□印は良好な内容を示し、■印は課題と考えられる内容を示しています。
「出題の趣旨」は、内容を要約して表記しています。

領域	出題の趣旨
話す・聞く	□互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。 □目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。 □必要に応じて質問しながら話の内容をとらえることができる。
書　く	□表現の効果を考えて描写することができる。 ■表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、良い点や改善点を見いだすことができる。 ■段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫することができる。
読　む	■文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉えることができる。 ■文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。
言葉の特徴や使い方に関する事項	□単語の活用について理解している。 ■文脈に則して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができる。 ■語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができる。

（３）全体を通しての考察と授業改善の方向性

ア【話す・聞く】

「互いの立場を尊重して意見をまとめる力」において、全国平均を上回っていますが、全国の正答率が５０％程度となっています。一方的に自分の考えを主張するのではなく、共通点や相違点を見いだしながら、納得感のある一定の結論（合意形成）に向かって考えをまとめる力が今後も求められます。

設問では、合唱コンクールの委員で、タブレット端末上で情報共有しながら、学級の課題の解決に向けて少人数で話し合う場面が設定されています。話合いで大切なことは、「何のために（目的）」「誰を対象に」「どのような状況で」行うのかを具体的に考えることです。設定した話題や検討している内容が、その目的や場面に合っているかを判断しながら進める必要があります。タブレットの音声を文字に起こす機能なども活用して、自分たちの話合いを客観的に振り返る機会を設けることも必要です。

イ【書く】

表現の効果を考えて描写を工夫して書く力はおおむね身に付いています。一方で、「助言に基づく改善」は正答率が低く、課題となっています。

設問では、経験したことを基に随筆を書き、読み手からの助言を踏まえ、表現の工夫とその効果について、書いた文章の良い点や改善点を見いだすことを求め

ています。「書くこと」の学習において、「推敲」「共有」の学習過程に当たるところですが、授業内の交流活動で、単なる感想ではなく「比喩が効果的だ」といった具体的な着眼点をもち、それを文章の質を高めることにつなげる「振り返る力」を養うことが大切です。

文章作成ソフトを使って書くことで、端末上で友達と作文を読み合い、コメント機能を使って、互いに書き込んだ助言を一覧化して整理することができます。また、表現を入れ替えたり、書き直したりすることが容易なので、どの言葉をどう変えるとより伝わりやすい文章になるかを確認しやすく、試行錯誤する機会を増やせます。評価するときの視点を明確にして、「この比喩があることで、こんな風に伝わるよ」といった具体的な助言を基に、文章を「直す（より良くする）」経験を積ませることで、不完全な状態でも書き始める意欲を育てることも大切です。

ウ【読む】

全領域の中で最も課題が顕著な領域です。文章全体の構造を捉える力や、根拠に基づいて論理的に説明する記述力が不足しています。その原因の一つに、情報の整理不足があると推察されます。

設問は、「会話の表情を表わす擬音語・擬態語」を題材に、文章全体の構造把握や語句の機能の解釈を問うものです

説明的な文章には、文章の中心となる部分と、それを支える例示や引用などの付加的な部分とが組み合わされて構成されているものがあります。単に内容を追うだけでなく、「この段落は結論に向けた『分析』なのか、単なる『例示』なのか」という文章の骨組みを意識させ、情報を整理することが必要です。バラバラにした段落カードを正しい順番に並べ替えたり、段落同士を「矢印」でつなぎ、「例→分析」や「原因→結果」といった関係性を図解したりする活動も効果的だと考えられます。教科書でも、読むことをゴールにするのではなく、読んで学んだ表現の工夫やものの見方・考え方を、自らの表現活動で活用する構成となっています。表現活動をゴールに据えることで、読む際の視点が明確になり、作者・筆者の意図や表現上の工夫を主体的に読み取る力の育成につながると考えられます。

エ【言葉の特徴や使い方に関する事項】

単語の活用に関する基本的な知識、特に「ら抜き言葉」の識別についてはよく定着しています。一方で、文脈に則して正しく漢字を書いたり、語句の文脈上の意味を捉えたりすることについては、本市の平均正答率が全国平均を上回っていますが、全国の正答率が40％を下回っています。

辞書的な意味を踏まえ、文章中から「ほうふつとさせる」と同じ内容を表す別の表現を抜き出す問題において、無解答率が高く、文章を精読して適切な語句を特定する「情報の扱い方」との連動した力に課題があります。

９　中学校　数学について（全１６問）

（１）概要

本市の平均正答率は、全国平均を上回っています。

（２）平均正答率からみた学力・学習状況の傾向

＊　表中□印は良好な内容を示し、■印は課題と考えられる内容を示しています。
「出題の趣旨」は、内容を要約して表記しています。

領域	出題の趣旨
数と式	□同類項の意味を理解している。 □事柄が成り立つ理由を文字を使って説明するための方針を立てることができる。 ■統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができる。
図　形	□具体的な事象において、考察の対象となる角を的確にとらえることができる。 ■具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことができる。
関　数	□与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。 ■数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
データの活用	□箱ひげ図と四分位数の対応について理解している。 ■データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができる。

（３）全体を通しての考察と授業改善の方向性

ア【数と式】

同類項の意味を理解しているかどうかについては、全国平均を大きく上回っています。事柄が成り立つ理由を文字を使って説明するための方針を立てることができるかどうかについては、おおむね理解できています。一方で、統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することに課題があります。６（３）では、選んだ２数の差にどのような数をかけると Ａ－Ｂ の値になるかを読み取ることができなかったと考えられます。そこで、Ａ－Ｂ の値は、選んだ２数の差の９１倍になるという結論を導き出すためには、数量の関係を式に表したり、式の意味を読み取ったりすることや、具体的な場面に即して、目的に応じて式を変形する活動を設定することが大切です。

イ【図形】

具体的な事象において、考察の対象となる角を的確にとらえることができるかどうかについては、全国平均を少し上回っています。具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことについては、全国平均を上回っていますが、正答率が低くなっています。証明する事柄の仮定を見いだすためには、図や場面を基に、「垂線をひく」という記述があるから○○⊥○○である等、見たことや気付いたことを数学の言葉で表現できるようにすることが大切です。

ウ【関数】

与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることについては、おおむね理解できています。一方で、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題があります。指導に当たっては、具体的な事象の中から観察や操作、実験などによって取り出した二つの数量について、事象を理想化したり単純化したりすることによって、それらの関係を一次関数とみなし、そのことを根拠として変化や対応の様子を観察したり予測したりすることができるようにすることが大切です。

エ【データの活用】

箱ひげ図と四分位数の対応について理解しているかどうかについては、全国平均を上回っており、無解答率も低いです。また、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することについて、全国平均を上回っていますが、正答率が低くなっています。指導に当たっては、度数分布多角形の特徴に着目し、読み取り、比較し、判断し、根拠を説明し合う場を設けるなどして、度数分布多角形のどのような特徴を根拠にそう考えたのかを説明できるようにすることが大切です。

１０　中学校　英語について

※本年度の全国学力・学習状況調査において、中学校英語の調査はCBT（Computer Based Testing）方式で実施され、生徒一人が解く問題数は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の３技能は、公開問題１０問と非公開問題１２問、「話すこと」は、公開問題４問と非公開問題数問で構成されています。本考察は、公開問題を対象としていますが、全ての生徒が受検していない問題の内容や傾向についても触れています。

（１）概要

本市の平均IRTスコアは、全国平均とほぼ同等です。

（２）各問題の平均正答率からみた学力・学習状況の傾向

＊　表中□印は良好な内容を示し、■印は課題と考えられる内容を示しています。
「出題の趣旨」は、内容を要約して表記しています。

領域	出題の趣旨
聞くこと	□レストランでの店員と客の会話を聞いて、情報を正確に聞き取ることができる。 ■日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができる。
読むこと	□メールの内容を読み取り、情報を正確に理解し、適切な時刻を選択することができる。 ■メッセージを読み、相手が示した条件に合うウエブサイトを選択する。
話すこと	□音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる。 ■社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができる。
書くこと	□日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる。 □社会的な話題について、短い文章を読み、内容を理解することができる。

（３）全体を通しての考察と授業改善の方向性

ア【聞くこと】

日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることについて、全国平均を大きく下回っています。また、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることについても全国平均を下回っています。まず、自分の置かれた状況を把握し、何を聞き取るか理解した上で、それらに関連する語句や表現に着目して、必要な情報を聞き取ることができるような活動をすることが効果的です。目的・場面・状況を明確にし、教師やALTなどが話す英語を聞く機会を多く確保することが大切です。また、クラスルームイングリッシュなども定型の英文だけではなく、少しずつアレンジして聞くことで、様々な場面でその意味を理解することができるようになります。

イ【読むこと】

日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることにおいて全国平均を大きく下回っています。一語一語や一文一文の意味など、特定の部分のみにとらわれるのではなく、大意をくみ取りながら読むことが重要です。また、書き手の意図を理解し、書き手が伝えたいことを理解しながら読む練習をすることも大切です。教科書の本文を一読した後、簡単なQAでその内容を確認することも有効です。

ウ 【話すこと】

社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことについて全国平均を大きく下回っています。生徒が関心のある事柄を取り上げるなど、主体的に話したくなるような目的・場面・状況を設定し、即興的なやりとりをする機会を増やすことが効果的です。また、英語で読んだ内容を要約し、自分で言い換えるリテリングも有効です。「話すこと」で問われる内容には異文化を含むことも多くあるため、世界の様々な文化や習慣について、興味をもち、幅広い知識を身に付けることも大切です。

エ 【書くこと】

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことについて、全国平均を大きく上回っています。一方、社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を欠くことについては全国平均を少し下回っています。読んだ内容を要約し、自分なりに書き換えるリライトの活動が効果的です。また、内容に対する感想や賛否、自分の考えを書くなど、アウトプットする機会を増やすことが重要です。日記や身近なものやことについて、生徒にとって興味がある内容について書く機会を多く確保することが大切です。

１１　質問調査

子どもたちの考え方や普段の様子について、主な結果を掲載しています。

＊　表の見方　＊

○　全国の欄に示している割合（％）は、「（いつも）している・当てはまる」「（時々）している・どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合（合計）を示しています。

○　高松市の欄に示している「高い」「やや高い」「ほぼ同じ」「やや低い」「低い」という言葉は、全国の割合に比べて、高松市の割合がどうであるかを示しています。なお、赤系統の色は改善を要すると思われる状況であることを示しています。

【　小　学　校　】

(1)　生活に関すること

質問番号	質　問　内　容	全国（％）	高松市
（１）	朝食を毎日食べている。	93.3	ほぼ同じ
（４）	普段（月曜日から金曜日）、１日当たり２時間以上スマートフォン等でSNSや動画視聴などをしている。	57.6	ほぼ同じ
（６）	学校の勉強のことについて、親や家族と週に１回以上話をしている。	75.0	ほぼ同じ
(23)	学校の授業以外に、普段、１日当たり１時間以上勉強をしている。	49.9	低い
(26)	学校の授業以外に、普段、１日当たり10分以上読書をしている。	46.1	ほぼ同じ

(2)　自分自身に関すること

質問番号	質　問　内　容	全国（％）	高松市
（８）	自分には、よいところがあると思う。	85.6	やや低い
(10)	将来の夢や目標を持っている。	81.8	ほぼ同じ
(11)	人が困っているときは、進んで助けている。	92.7	ほぼ同じ
(12)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	96.2	ほぼ同じ
(14)	人の役に立つ人間になりたいと思う。	95.8	ほぼ同じ
(15)	学校に行くのは楽しいと思う。	85.7	ほぼ同じ
(17)	友達関係に満足している。	91.1	ほぼ同じ
(33)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。	80.1	ほぼ同じ

(3) 学習へのＩＣＴの活用に関すること

質問番号	質　問　内　容	全国(%)	高松市
(35)	授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、週に３回以上使用している。	68.8	**低い**
(36-3)	授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する(図・表・グラフ・思考ツールなどを使ってまとめる)ことができる。	69.5	**やや低い**

(4) 学習に関すること

質問番号	質　問　内　容	全国(%)	高松市
(40)	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている。	73.4	**低い**
(41)	授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっている。	80.8	ほぼ同じ
(44)	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思う。	80.8	ほぼ同じ
(47)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	79.9	**低い**
(49)	学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。	81.5	ほぼ同じ
(51)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。	86.9	ほぼ同じ
(53)	国語の授業は好きだ。	57.4	**低い**
(61)	算数の授業は好きだ。	57.6	ほぼ同じ
(70)	英語の授業は好きだ。	66.7	ほぼ同じ

【 結果について 】

(1) 生活に関すること

・朝食を毎日食べる児童の割合が高い傾向が見られますが、６割近い児童が平日１日当たり２時間以上スマートフォン等で SNS の利用や動画視聴などをしています。平日１日当たりの使用時間が短い児童の各教科の正答率は、比較的高い結果となっています。スマートフォン等の使用は、時間の管理が大切です。

・学校の授業以外に、普段、１日当たり１時間以上勉強している児童の割合が全国を下回っており、授業と家庭学習をつなぐ手立てを講じていくことが重要です。

(2) 自分自身に関すること

・自分にはよいところがあると答えた生徒は、昨年度と同様で、全国を下回っています。児童のよさや努力を積極的に認めるとともに、成功体験や自己有用感を高める活動を充実させることが重要です。

・学校に行くのは楽しい、友達関係に満足していると肯定的に回答している児童は９割程度おり、学校生活が充実していることが分かりますが、残りの１割程度の児童に対して、特に重点的な支援を行うことが重要です。

(3) 学習へのＩＣＴの活用に関すること

・授業で PC やタブレットなどの ICT 機器を週３回以上使用している児童の割合は、全国を大きく下回っており、昨年度から更に減少しています。ICT 機器を使って情報を整理することができると回答した児童の割合も全国を下回っており、ICT 機器を使用するだけでなく、児童自身が情報を整理するための効果的な活用を推進し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に進めていくことが重要です。令和７年度の後半に児童用学習端末を一新しておりますので、学習への活用方法を見直すことが重要です。

(4) 学習に関すること

・学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いのよさを生かして解決方法を決めていると回答した児童は全国同様、高い傾向にあり、学級会での主体的な活動が充実していることが分かります。

・総合的な学習の時間に、自分で課題を立てて情報を整理して、調べたことを発表したと回答した児童は、全国を下回っています。児童が学校行事や地域学習、人権学習などの教科横断的な学習の中心になるようにして、主体的な学びの場を設定していくことや ICT 機器を効果的に活用して情報を整理することが大切であると考えます。

【 中 学 校 】

(1) 生活に関すること

質問番号	質　問　内　容	全国(%)	高松市
(1)	朝食を毎日食べている。	90.9	ほぼ同じ
(4)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たり2時間以上スマートフォン等でSNSや動画視聴などをしている。	74.9	ほぼ同じ
(6)	学校の勉強のことについて、親や家族と週に1回以上話をしている。	72.2	ほぼ同じ
(23)	学校の授業時間以外に、普段、1日当たり1時間以上勉強をしている。	61.6	ほぼ同じ
(26)	学校の授業時間以外に、普段、1日当たり10分以上読書をしている。	33.6	ほぼ同じ

(2) 自分自身に関すること

質問番号	質　問　内　容	全国(%)	高松市
(8)	自分には、よいところがあると思う。	84.0	ほぼ同じ
(10)	将来の夢や目標を持っている。	67.6	**やや低い**
(11)	人が困っているときは、進んで助けている。	90.8	ほぼ同じ
(12)	いじめは､どんな理由があってもいけないことだと思う。	95.1	ほぼ同じ
(14)	人の役に立つ人間になりたいと思う。	95.9	ほぼ同じ
(15)	学校に行くのは楽しいと思う。	85.4	ほぼ同じ
(17)	友達関係に満足している。	91.2	ほぼ同じ
(33)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。	72.3	ほぼ同じ

(3) 学習へのＩＣＴの活用に関すること

質問番号	質　問　内　容	全国(%)	高松市
(35)	授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用している。	78.2	**低い**
(36-3)	授業で、PC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図・表・グラフ・思考ツールなどを使ってまとめる)ことができる。	69.4	**低い**

(4) 学習に関すること

質問番号	質　問　内　容	全国(%)	高松市
(40)	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている。	79.8	**低い**
(41)	授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっている。	78.9	ほぼ同じ
(44)	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う。	78.0	**やや低い**

(47)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	80.8	**低い**
(49)	学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。	84.5	**やや低い**
(51)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。	91.3	ほぼ同じ
(53)	国語の授業は好きだ。	57.2	**やや低い**
(61)	数学の授業は好きだ。	56.1	**やや低い**
(70)	英語の授業は好きだ。	51.2	**やや低い**

【 結果について 】

(1) 生活に関すること

・７割強の生徒が、平日１日当たり２時間以上スマートフォン等で SNS の利用や動画視聴などをしています。平日１日当たりの使用時間が短い生徒の各教科の正答率は、比較的高い結果となっています。スマートフォン等の使用は、時間の管理が大切です。

・家庭で１０分以上読書をする生徒は全国と同様の３割程度で、家庭での読書の習慣は課題となっています。

(2) 自分自身に関すること

・自分にはよいところがあると答えた生徒は、昨年度と比べて上昇しています。将来の夢や目標を持っている生徒は全国に比べるとやや低い傾向にはありますが、昨年度と比べると上昇しています。将来への展望が持てるような道徳教育や、キャリア教育の充実が大切です。

・人が困っているときは、進んで助けている、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うと答えた生徒が９割以上おり、人権感覚が高いことが分かります。この人権感覚を、日常生活に活かすための道徳的実践力を育成することが大切です。

(3) 学習へのＩＣＴの活用に関すること

・授業で PC やタブレットなどの ICT 機器を週３回以上使用している生徒の割合は、全国を大きく下回っており、昨年度と比べても変化はありません。ICT 機器を使って情報を整理する力も全国を大きく下回っており、ICT の効果的な活用を推進し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に進めていくことが重要です。令和７年度の後半に生徒用学習端末を一新しておりますので、学習への活用方法を見直すことが重要です。

(4) 学習に関すること

・道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んだ生徒は全国同様、高い傾向にあり、道徳の授業が充実していることが分かります。

・総合的な学習の時間に、自分で課題を立てて情報を整理して、調べたことを発表したり、学級活動で学級生活をよりよくするために話し合い、互いの意見のよさを生かしたりしたと回答した生徒は、全国をやや下回っています。学校行事や地域学習、人権学習などの教科横断的な学習の中心に生徒を置き、主体的な学びの場を設定していくことが大切であると考えます。

１２　今後の教育施策・事業等への反映

(1) 教科の学習について

ア　確かな学力の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の視点やユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善を進めながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るとともに、学ぶ楽しさや達成感を味わうことができる授業づくりや、学んだことを実生活に生かす学習を推進します。

イ　GIGA端末を活用したAI型ドリル等の効果的な活用によって、児童生徒一人ひとりの課題に応じた指導を推進し、学力の二極化の解消に努めます。また、子どもが主体的に取り組む家庭学習の実践を進め、生涯を通じて学び続ける「自律的な学習者」の育成を図ります。

ウ　本に親しみ豊かな情操が育まれる読書活動を推進しつつ、自らの力で必要な情報を集め、文章や資料から適切に引用したり情報同士の関係性を整理・可視化したりする指導の充実を図り、子どもたちの情報収集・活用能力の育成や読解力の向上に努めます。

エ　指導主事等が学校訪問や要請訪問等の機会を捉え、各学校の課題改善に向けた取組を支援するとともに、優れた実践例の情報提供を行います。

オ　教員研修会において、「分かる楽しい授業づくり」に役立つ情報の提供や事例研究等を行い、授業改善に努めるよう指導・助言します。

(2) 生活実態等について

ア　道徳教育の充実や、講演・講話や見学・体験など多様な活動を取り入れて行うキャリア教育や主権者教育、シビックプライドを育む教育などの推進により、教育活動全体を通して自尊感情や規範意識、挑戦しやり抜く心、地域社会の一員としての自覚等の涵養に努めます。

イ　心に響く人権教育・道徳教育を行ったり、児童会・生徒会活動を主体としていじめについて考える集会を開いたりして、自他の生命を尊重し、友情の尊さや正義を重んじる態度を育むとともに、全ての児童生徒に、「いじめを絶対にしない・させない・許さない」という強い意識を醸成します。

ウ　小学校と中学校の教職員の連携を深め、義務教育９年間を見通した視点で連続性と発展性を重視した教育活動を展開し、豊かな心や健やかな体の育成に努めます。

エ　基本的な生活習慣や学習習慣の確立、社会参画につながる意欲や態度の育成は、保護者の協力が必要であることから、関係各課と連携してＰＴＡや地域社会等に働きかけます。また、学校運営協議会を活用して、学校と家庭、地域が教育目標を共有することで、子どもと家族や地域との絆を深めていきます。

オ　教員研修会において、道徳性・社会性の育成や児童生徒理解の深化を図るとともに、スクールソーシャルワーカー（SSW）やスクールカウンセラー（SC）等を活用した教育相談体制の充実に関わる事例研究や情報交換を推進します。